

# 疾走する ノンパッケージ ミュージック

原 雅明・編集部

2001年2月号で「復活のシナリオ」を特集したNapsterだが、状況は一変し以前にも増して窮地に追い込まれている。2000年2月21日、控訴裁判所はNapsterに対する業務停止命令の内容を「ファイル交換業務についての停止命令」とし、問題の核心部分を強調する修正を加えるとともに、状況によっては命令が執行されることも示唆した。Napsterはレコード会社から提出された「交換停止要求楽曲リスト」に載っている楽曲をサーチ対象から除外するフィルターを用意して命令執行の延期を図ったが、結果は穴ボコだらけで使

いものになっていない。さらにNapsterとの提携を結んだ独ベルテルスマンとしては、レコード会社との和解を実現し、早く次世代の音楽流通モデルの構築を推進したいと考えているのだが、和解案としてNapster側が提示した「10億ドル」という金額についても、レコード会社側が調査した被害総額とは「ケタが違う」ために交渉は非常に難航している。しかし、音楽業界によるノンパッケージ流通への取り組みそのものが停滞している訳ではない。そこで今回は、混沌とした状況ながらも前進する米音楽業界の最新動向をレポートする。

# Napster敗訴の波紋 変貌する米音楽配信事情

アメリカでは、Napsterの普及によって音楽ファイルを無料で交換することが日常的に行われる状況となっているなか、ユーザーに受け入れられる有料サービスの模索に音楽業界が乗り出している。ブロードバンドの普及で注目を集める「サブスクリプション」とはなにか、また何度か紹介した「超流通」を事業化すべく動き出した大型の提携など、より具体的になってきた構想や戦略を紹介しよう。

## 転換を迫られるアメリカの音楽配信

携帯電話による音楽配信や大手レコード会社の音楽配信事業への参入など、音楽配信に関する前向きな話題にこと欠かない日本からは、まったく対岸の火事ではないのだが、かのIT大国、アメリカの音楽配信サービスは、いま市場から転換を迫られているようだ。アメリカの大手レコード会社による音楽配信ビジネスは、アルバム単位のダウンロードなどダイナミックな部分はあるものの、市場規模と比較するといまだ実験段階で様子見の状態、今後規模を拡大するにはユーザーとの間にできた大きなギャップを修復する必要がある。それは、Napsterのサービスが停止されても依然として無料ダウンロード三昧だった日々が忘れられないユーザーたちにとって「1曲いくら」という販売形態は受け入れ難いものとなっているからだ。事実、この「Napster後遺症」とでもいうべき症状は予想以上に重く、現在ダウンロード販売を行っているアメリカの大手レコード会社は、信じられないほどの苦戦を強いられている。「Napsterを日常的に利用してきたユーザーが相手では、有料サービスなどもはや成立しないのでは？」という諦めムードの意見はあるものの、アメリカの音楽業界には次の一手が用意されている。

## 定額制サービスに注目

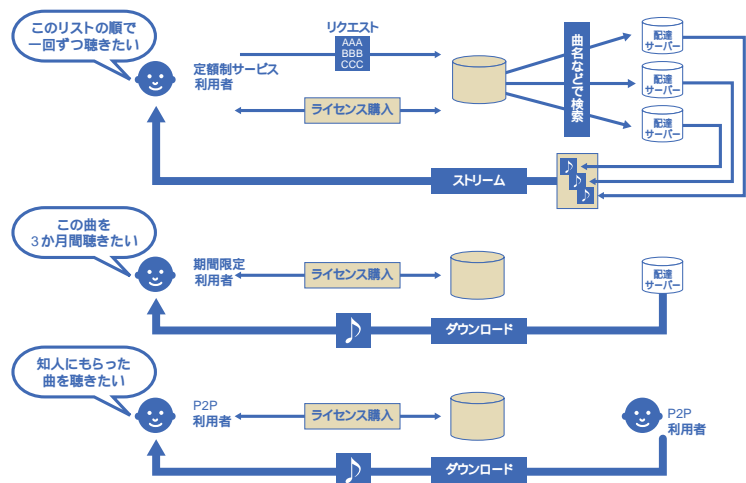
Napsterを使用すれば音楽ファイルが無料で手に入る。しかし、P2Pでほかの

Napsterユーザーのローカルディスクにアクセスする場合、相手方のネットワーク環境によってダウンロード時間が左右されるため、かならずしもすべての曲がいますぐ聴けるわけではない。「あの曲をいますぐ聴きたい」というニーズを満たすには、時間のかかるダウンロードよりも、リクエストを受けてすぐに再生が始まるストリームのほうが適しているのだが、従来の通信環境では「ストリームは途切れるもの」という認識が一般的であり、有料化は難しいとされてきた。しかし、高速で安定した通信速度が保証されるブロードバンドサービスの普及により、FM放送並みの音質でも途切れないストリームが可能となってきた。さらに料金を1曲ごとに支払う必要がない定額制にすれば、「いま聴くだけなら、何

分かかるかわからないNapsterのダウンロードよりも便利」という認識が定着するだろう。このような定額制のサービスは「サブスクリプション」と呼ばれている。サブスクリプションによってオンデマンドで提供されるストリーミングは、たとえるなら「完全にオンデマンド化された有線放送」というイメージであろう。

ところで、サブスクリプションへのニーズを裏付けけるものとしてBeam Itなどが提供していた「ロッカーサービス」(本誌P.232参照)がある。これは、自分が所有しているCDのタイトルをサーバーに登録することにより、CDを持ち歩かずにどこでもストリームで再生できるというサービスなのだが、借りてきたCDでも登録できてしまう点に問題のあるグレーな存在

配信楽曲集中管理の予想モデル



だ。しかしながら、便利さが評判を呼んで合法化を求める声は多い。こういった背景もサブスクリプションが注目されることになった要因の1つだろう。

### 実用化間近な「超流通」

さて、サブスクリプションのほか以前から注目されている「超流通」への取り組みも進んでいる。ストリームではなく、音楽ファイルを保存して何度も聴くという場合、従来では無制限に聴けるライセンスの取得、すなわち「買い取り」が一般的であり、これはCDなどのパッケージソフトと同じ形態である。そこで買い取りだけではなく、特定の回数や期間に限定して聴きたい場合やポータブルプレイヤーに転送して聴きたい場合など、聴き方によって異なるライセンスや料金で利用できるようにすることが超流通の目的なのだ。この仕組みを音楽配信に応用するために誕生したのが、「Bluematter」である。

Bluematterは、アメリカの大手レコード会社であるVivendi Universal MusicがInter TrustおよびReal Audioの技術を活用して開発した音楽配信フォーマットだ。ほかの配信システムのライセンス発行サ-

パーでは、一度ライセンスを購入すれば無制限に聴ける買い取りタイプにしか対応していないのに対し、Inter Trustの技術では「回聴きたい」「3か月間だけ聴きたい」といったさまざまな利用形態をユーザー側が自由に選び、それぞれに応じたライセンス発行が可能だ。Bluematterは、将来この技術に応用した柔軟な音楽配信サービスへシフトするものと思われる。余談だが、このInter Trustのシステムは音楽だけでなく映画やゲームソフトの流通にも適している。映画の場合は1回観れば十分という場合が多いので、買い取りライセンスよりも利用回数ごとに料金を支払うペーパービュー方式のほうが向いているだろう。また、ゲームソフトの場合はアーケード感覚で1回分のライセンスを購入し、実際に遊んでみて、おもしろいかどうかを判断できる。

### 集中管理システム「Duet」誕生

有料の音楽配信サービスがどこまで普及するかは、利用できる楽曲数にかかっているだろう。一般的には大型のCDショップで所有している程度の新旧ヒット曲や名曲がそろっていれば満足できるはずだが、それでも数万タイトルは必要だ。Napster

人気の要素として、入手できる曲数が膨大である点が挙げられる。サブスクリプションや超流通などについても、利用できる曲数が重要となってくる。そこで、米のVivendi Universal MusicとSony Musicという2つの大手レコード会社は、両社の音楽配信におけるライセンス管理を共同で行うための合弁会社「Duet」の設立を発表した。それによれば両社で販売する楽曲数を合わせると世界市場の約半分のシェアがあるとのことで、さらに規模を拡大するためにほかのレコード会社の参加を呼びかけていくという。Duetは前出のBluematterを使用し、MP3.comのようなサービスの上に位置する集中管理システムとして、最大限の楽曲数を最大限のプラットフォームで流通させることを目的としている。将来の展望として、すでにヨーロッパで広く普及しているCanalPlus社が開発したCATV用のセットトップボックスでダウンロードされた音楽を、プレイステーションやウォークマンなど、メモリスティックとのインターフェイスを持つ機器に移動可能にすることに興味があるようだ。この世界第1位と第2位のレコード会社による大型提携の今後に要注目である。



### Napsterのトップページ

レコード会社や裁判所とのやり取りが日々更新されている。やんわりとしたレジスタンス煽動作戦も……。



### bluematter.com

ロック、R&Bなどの歴史的名曲が多数配信されているのだが、残念ながらアメリカ以外では利用できない。

# 海外の音楽配信サイトにInterview Net Age Music vol.3 「Supersphere.com」

 www.supersphere.com

音楽配信サービスというにはあまりにも多彩かつ膨大なコンテンツを誇り、しかもほとんどのライブ中継が映像付きという、ほかにあまり例を見ない試みを実現しているのが、イリノイ州シカゴをベースとする「Supersphere.com」だ。オンラインラジオやクラブでのDJプレイ、バンドのライブ中継などはもちろんのこと、インディペンデント映画や雑誌などのコンテンツも積極的に提供している。しかも、なんでもありのカルチャーサイトというわけではなく、それらの選択には独特のユニークな視点が貫かれている。Supersphere.comのディレクターであり、プログラマーでもあるジョン・エバンズ氏がインタビューに応じてくれた。

取材・文 / 原 雅明 (HEADZ)

翻訳 / パルーチャ・ハシム (HEADZ)

## 多様性のあるすぐれたスタッフ

「Supersphere.comは5人でスタートさせたんだ。ビジネスマン、インディー出版者、グラフィックアーティスト、ウェブオタク、そして僕。1998年の暮れにビジネスモデルを書き上げて、1999年に制作を始めた。それ以来、ビジネスモデルは最低3回書き直してるけど、まだ完全に納得のいくものはできていないんだ」

彼らは、地下室に番組の編集やエンコーディングのためのスタジオと、ラジオ番組でDJがパフォーマンスをするためのスタジオを作ることからスタートさせた。

「録ったショーを完成させるための編集機材として、エンコーディング用のワークステーションが2台と、ネットワーク用にウィンドウズがLinuxを走らせているパソコンとマッキントッシュが数台。置いてあったのはそんなもので、いまも変わらない。Linuxはメディアエンコーディング、ストリーミング、ウェブサーバー、メディアサーバーとして、あらゆる用途に使用できて強力だね」

スタートからわずか2年あまりの間に、

Supersphere.comは驚くほどコンテンツの幅を広げていった。扱っている音楽のジャンルは、ロックやヒップホップから、テクノ、ハウス、ジャズ、実験音楽、さらにカントリーやブルースまで実に幅広い。

「それは、多様性のあるすぐれたスタッフと仕事ができただけの結果だと思う。現在ではフルタイムで20人ほど働いていて、みんなすばらしく幅広い才能を持った人たちなんだ。テクニカルスタッフについては、僕はいわゆる“ウェブ業界”出身ではない人を起用するようにしているね。この業界の人間は、自分たちがやっているウェブ系の仕事が非常に複雑で、一般人には絶対に真似できないものだというイメージを意図的に作り出している気がする。僕はそれが大嫌いなんだ。だから、能力だけではなく、学んで成長したいという意欲を持った人を起用するようにしているよ」

## ライブの体験を模倣したい

豊富なコンテンツのなかでも特に目をひくのはライブ映像である。まだRealPlayerの小さなウィンドウで粗い画像を見るだけという状況だが、それらは、映像との連動の重要性を訴えかけはじめていると思う。

「ライブの体験を模倣しようとしてるんだ。コンサートやDJは1台のカメラで、オーディエンスと同じ視線でステージを撮影するようにしている。バンドメンバーの1人1人にフォーカスして、機材のケーブルを追ったり、フレットボードの指に焦点を当

てたりする。まるでライブを見ているかのように、ステージをあちこちカメラで撮影していく。誰かをロックスターのように見立てたり、MTVのスタイルでビデオを撮るつもりはまったくないね」

それにしても、これだけの映像を配信し、アーカイブしていくだけでも大変なことだろう。

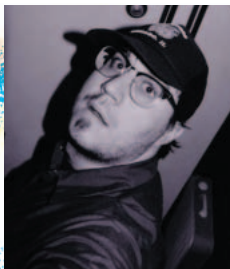
「直面した問題は、やはりディスクベースとストリームだね。最初のころは試行錯誤の連続だったけど、ウェブ用のビデオを作るもっとも簡単な方法を見つけて以来、そのプロセスはあまり変わってないんだ。ビデオのエンコーディングとストリーミングのためのプログラムを改善するべきだよ。それには、プレイヤーやエンコーダーのソースコードを公開することが大切だと思うね」

現在26歳のジョンは、すべて独学でウェブについて学んできたという。

「僕の知識は、独学が盗んだ情報だよ。いま、Supersphere.comからMP3やビデオファイルを、開発中の著作権の保護機能を強化したソフトウェアで配信することに取り組んでいるけど、このようなテクノロジーのコストは高いので、僕らみたいなオタクがなんとか方法を見つけない限り、インディーレベルの人の手には入らないんだ。一方で、DVDオンデマンドのシステムを作って、インディーが製作した映像作品をそこにアップし、ユーザーが好きなものを選び、それをDVDに焼いて送ってもらうやり方にも興味がある。そうすれば、インディーの映画制作者は、不要な経費を省いて欲しい人に作品を配布できるはずだからね」

## インディペンデントメディアを代表したい

ジョンの話を知っていると、Supersphere.comは、総合的なインディペンデントメディアを目指しているように思える。音楽はもちろんのこと、映像、映画、さらにはラジオや雑誌的な役割まで含めた包括的なビジョンを提示しようとしているようだ。



Supersphere.comのディレクター兼プログラマー、ジョン・エバンズ氏。

# Supersphere.com が直々にガイド!

## オススメサイト current top 3



Jump [www.regenerationtv.com](http://www.regenerationtv.com)

僕らと似た考えかたを持ってのすばらしいチームによるサイト。バンドのストリーミングビデオ、政治運動、ドキュメンタリーなどがあるんだ。



Jump [www.dischord.com](http://www.dischord.com)

Dischord Recordsのウェブ。このサイトの構成はすばらしい。メンテナンスも行き届いている。ここで僕は何百ドルも落としてるよ。



Jump [www.indymedia.org](http://www.indymedia.org)

彼らの説明をそのまま転載するべきだろうね。「Indymediaは、インディーで活動しているメディアオガニゼーションの集まりであり、何百人ものジャーナリストが草の根的な活動をし、企業に左右されていない報道をしている。Indymediaは、民主主義的なメディアの場として、真実をラディカルにかつ正確に、そして情熱的に報道している」

「たしかに、それこそが僕らのビジョンなんだ。ブレイクするであろう次のデカイバンドなんて探してないし、よりビッグなアーティストを撮影できることなど期待していない。僕らはインディペンデントメディアを代表したいんだ。また、オフラインにも進出したいと思っているよ。たとえばテレビ番組を制作してみたり、DVDを売ったりね。それは退化ではなく、僕らが持っているフォームを拡張させて実体的なものを出しつつ、違う形でオーディエンスを広げたいということなんだ」

シカゴを一度だけ訪れたことがある。大都市にもかかわらず、独特のゆるやかな時



### Clubtronic

過去2年半の間に撮影されたライブコンサートの全部ここに含まれている。スタッフの好みは非常に幅広いので、いつも熱い討論を繰り広げて決めているんだ。もちろん、アーティスト自身は、無編集/無修正でコンサートを全部ウェブに載せることを承諾してくれているよ。



### Radiomatica

ここは、シカゴにおけるDJのイノベーターとして知られているルデュースが中心となって運営しているオーディオプログラムのセットと、24時間生放送のラジオ番組を提供しているんだ。



### MediaMix

映画と音楽の評論、マルチメディアについての特集記事など、Supersphere.comで扱っているメディア全般について考えるためのページ。執筆は全部スタッフが担当している。最後に数えたとき、映画の評論だけで200以上あったかな。

間が流れている不思議な街だった。そしてシカゴからは、シカゴハウスやポストロックが生まれたように、ニューヨークやサンフランシスコとはまた違ったタイプのオリジナルな音楽が登場してきた。Supersphere.comからも、そんなシカゴの音楽シーンに根ざしているという、確固たる姿勢が感じられる。

「僕らは何年も前から、つねに何らかの形でシカゴの音楽コミュニティとかかわってきた。だから、意識的にシカゴ出身の音楽をサポートするようにしている。たしかに、この街には、ほかの街にはない特別なシーンがあると思うからね。

## Supersphere.comの構造



### Zinetropa

雑誌に関するコンテンツやブックレビューはここにまとめられている。インディーコミックの特集などもあるよ。実はもっとも力を入れていて、完成度の高いセクションなんだ。



### SphereVision

あらゆるタイプのインディペンデント映画 (ex.短編、ドキュメンタリー、実験的作品) を提供している。ここからDVD作品などが生まれると思う。



### SpherePolitic

非帝国主義的なスタンスから、時事的な政治問題 / ムーブメントを取り上げている、と言っておこう。特派員は、99年のシカゴ暴動以来、おもな政治的抗議運動に参加していて、記事や、Supersphereが制作した抗議運動についてのビデオも含まれている。いろいろなアーティストも参加しているよ。

## サブカルチャーに利用してほしい

Supersphere.comは、“メインストリームの外でアーティストがインディペンデントに活動していくためのツール”を提供していきたいと思っているんだ。これらのツールには、DVDリリース、安全なデジタルコンテンツ流通のMP3リリースやビデオファイルのリリースなども含まれている。僕ら自身がアーティストやミュージシャンとして使いたいようなリソースを提供したい。決してアーティストを利用するようなシステムではなく、あくまでも“サブカルチャーが利用できるようなリソース”としてね」



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)